

2025年度（平成7年度）学校評価自己評価表

城西中学校区	校番9	福山市立 泉小学校
最終更新日		2025年（令和7年）4月11日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	コミュニケーション力・表現力・忍耐力
○各校とも児童生徒が意欲的に授業や行事に取り組んでいる様子が見られ、一定の成果が出ている ○各校が、地域の施設に出向いたり、地域の方々を招いたり、地域とのかかわりを重視した学習活動に工夫して取り組んでいる ●学校間、地域が連携を深め、より多くの子どもたちが地元の中学校で過ごせるように魅力づくりを進めている	○「子ども主体の学び」を目指し、小・中学校が連携して研究・実践を行い、授業改善を進めており、児童生徒の授業に対する意欲、積極性は高まっている ○行事等を通して、小・中学校とも集団づくり、児童生徒の主体的な活動に取り組んでおり、意欲的に頑張る児童生徒は増えている ●すべての学習の基盤となる「ことば」にこだわり、伝えたり、読み取ったりする力を育てていきたい ●引き続き、不登校児童生徒への丁寧な取組が必要である	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	地域に愛着と誇りをもち、心豊かにたくましく生きる子ども
		中学校区として統一した取組等	☐ 自己肯定感を高める（児童会・生徒会の合同活動・中学校オープンスクール） ☐ コミュニケーション力・表現力・忍耐力をつける（幼保小中連携教育・合同授業研究） ☐ 健康への意識を高め、体力向上を図る (体力向上の取組・体力テストの分析・生活改善の取組・校区保健だよりの発行)

III 自 校

ミッション	育成する力 資質・能力	コミュニケーション力・表現力・忍耐力
児童が自ら学び、相互にかかわり高め合う教育活動を行うことで、次世代を担う人材を育成する。		
学校教育目標	めざす子ども像	○自分や他者を理解し、自ら考え判断し、表現する子ども ＜表現力＞ 様々な場面で言葉や技能を用いる。 信頼できる知識や情報を収集し活用する。 ＜コミュニケーション力＞ 目標を達成するために、他者と協働する。 意見の対立や理解の相違を互いの違いを認め合いながら解決する。 ＜忍耐力＞ 感情をコントロールし、ルールを踏まえて建設的な意見を述べる。 見通しをもって計画的に行動し、軌道修正しながら最後までやり遂げる。
現 状	研究	「わかった」「できた」と実感できる授業づくり ～効果的な言語活動による、「とことん読む」学習活動を通して～ ・国語科を中心に「言葉」の習得をねらった言語活動の充実 ・低・中・高学年の効果的な言語活動による読む力の育成を目指した授業づくり
＜児童＞ 自己表現の仕方やコミュニケーションの取り方に課題がみられる。このことにより、友達に自分の思いを上手く伝えられずに、相手に勘違いされトラブルになることがある。また、学力面では、標準学力テストにおいて、学校の全体的に読解力や活用問題に課題がみられる。このことから、本校の児童は、言葉を正しく理解し、活用できていないことが課題だと考えられる。 新体力テストでは、走力や持久力などに課題がみられた。体育の授業でこれらの課題が改善できる運動を継続して実施している。 ＜授業＞ ・児童の振り返りから授業改善を図る。今年度も引き続き、アセスアンケートや児童の振り返りから、児童の実態を把握し、そこから児童のつまずきを分析し、より良い学習ができるように環境の改善を図る。 ・国語科を中心に各教科で「言葉」の習得をねらった言語活動を取り入れた授業を行う。また、学びタイムでは、言葉の意味調べや音読などを行い、言葉の習得を図る。 ・各学年の教材研究をする際には、低・中・高学年の効果的な言語活動による読む力の育成に重点をあてる。	めざす授業の姿	・分からない言葉を調べたり、学んだ言葉を活用したりすることができる授業 ・意見の相違を互いに認め合いながら、仲間との対話が深まる授業 ・児童が「わかった」「できた」「次はこうしたい」という思いや自信をもつことができる授業

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 泉小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目 標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力 ₇₀ セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 ₇₀ セ ₇₀ 達成 評価	総合 評価	改善方策
3	課題を見出し、解決 に向けて挑戦する 意欲と諦めずに学 び続ける力を付け る。	★	継 続	児童一人一 人の知って いることを 生かした学 びを展開し、 児童が自ら の伸びや成 長を実感す ることができる。	・アンケートなど から児童の実 態を把握し、授 業改善を図る。	・児童アンケート 「学びが面白い」 肯定的回答8 5%以上								
					・「言葉」の習得 をねらった言 語活動を効果 的に取り入れ た授業づくり をする。 ・低・中・高学年 の、効果的な言 語活動による 読む力の育成 に重点をあて て教材研究を する。	・標準学力テスト の国語科の結果 の40%未満の 児童10%以下								
3	誰もが自分らしく 学ぶことができる 学校づくりに貢献 できる。	★	継 続	学校生活を よりよくす るために、 自分たちが できること を考え行動 することが できる。	・日々の生活や行 事等、コミュニ ケーションの 機会や学校生 活の成果や課 題を共有する 機会を設定し、 相手意識・美意 識が高まるよ う取り組む。	・児童会や委員会、 各学級から全校 へ取組の発信 や、学校生活を よりよくしよ うと主体的に行動 している児童の 紹介(評価)を 月に5回以上								
					・アセスメント を実施し、ア ンケート結果 から児童の学 校適応度を見 取る。	・「生活満足感」の 因子得点が40 以下の児童5% 以下								

[illegible]

【プロセス評価の評価基準】		【達成評価の評価基準】		【総合評価の評価基準】		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。